

【令和4年度評価】小項目ごとの検証・確認における論点整理

自己評価の区分		判断の目安
IV	年度計画を上回っている	計画の実施状況が100%超
III	概ね年度計画どおり実施している	計画の実施状況が90%超100%以下
II	年度計画を下回っている	計画の実施状況が60%超90%以下
I	年度計画を大幅に下回っている	計画の実施状況が60%以下

公立大学法人岐阜県立看護大学

通し 番号	R4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証
		業務実績、特筆すべき事項	自己 評価	
		自己評価理由、課題及びその改善策		
01	<p>ディプロマポリシーに示す能力を学生が確実に修得できるように、4セメスター修了時到達目標を学生に周知し、活用を促す。</p> <p>令和4年度入学者の資質及び学修ニーズを確認し、一年次の授業展開における課題を明確にする。</p> <p>看護専門職として主体的な自己を高めるための教養科目の充実を目指し、令和3年度から履修セメスターを変更した科目を含む教養科目の履修状況を確認する。</p> <p>卒業研究における学生の思考過程に即した指</p>	<p>4セメスター修了時到達目標は、3セメスターのガイダンス、4セメスターの領域別実習ガイダンスにおいて二年次生に説明し、各自で到達状況を自己評価するよう促した。</p> <p>1セメスター終了直後の7月に対面でグループワーク形式の学修ガイダンスを実施した。1セメスターの学修を振り返り、取組状況や困っていることを聞き、大学における学修に関する学生の思いや意見を把握し、教員間で共有した</p> <p>大学での主体的な学修を促すため、7・8セメスターから1・2セメスターへ移行した「世界の文化と言葉」の3科目（中国・韓国・スペイン）は、学生の希望に基づいて履修者を決定した。「世界の政治」の後継科目となる「グローバル市民社会とSDGs」は2セメスターに開講し、一年次生81名が選択履修した。教養選択科目の一部（体験型プログラム、人間生活と芸術等）では履修選択の上限人数を設けているが、全学生が第1希望か第2希望となるよう調整して履修者を決定した。全教養選択科目（37科目）に対し学生の履修登録があり、うち36科目については履修者全員が合格した</p> <p>学生は、卒業研究Iで実践した看護を振り返り、看護実践</p>		<p>多国語の履修、SDGsの学びを積極的に行うことは評価できる。</p>

通し 番号	R4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証
		業務実績、特筆すべき事項	自己 評価	
		自己評価理由、課題及びその改善策		
	<p>導を各教員が行い、生涯学習の基礎としての教育を継続する。</p> <p>卒業時到達目標の達成状況を分析し、各専門領域での指導方法の改善に活用する。また、全学的な傾向を共有し、指導内容を検討する。</p> <p>学生及び教員による授業評価に基づく科目単位及び学科単位の改善措置の実施体制を継続する。</p>	<p>課題を明確にして、課題解決の取組みを計画し、卒業研究Ⅱで実践し評価した。この一連のプロセスにおいて、看護職としての責任感の醸成と創造的な課題解決力の育成を目指して指導を継続した。</p> <p>卒業時到達目標（25項目）は、四年次の前期（7月）及び後期（12月）に達成状況を確認している。後期には24項目で、「一人ができる」「指導を受けてできる」と評価されたが、1項目（看護学以外の学問領域の学修により幅広い視野を持つことの重要性を説明する）については、「今後努力する必要がある」と評価した者が1名いた。教員間でこれらを共有し、大多数の学生は目標に到達できていることを確認するとともに、未達成の項目については、今後努力すべきことを学生と確認する等目標の達成を促進する指導について検討した。</p> <p>学生及び教員による授業評価に基づき、科目単位では責任教員がシラバスの改訂を行い、改善措置や学生へのメッセージを学内に掲示し、学科単位では、教務委員会及び教養・専門関連科目運営委員会において改善措置を検討する体制を継続した。</p>		
03	<p>本学科の教育成果を確認するために実施した卒業生調査の結果を分析・評価する。</p>	<p>本学卒業後10年以上となる者（6期～8期生）を対象に、令和2年度に質問紙調査、令和3年度に面接調査を実施した。面接調査では卒業生、直属の上司を対象に卒業生の看護実践状況等を尋ねたところ、両者から利用者中心のケア提供を大切にし、スタッフの立場でもリーダーシップを発揮しながら実践している様子が確認できた。</p>		<p>今後も計画的に上司を含む卒業生調査を実施されたい。</p>
09	<p>看護学科では、募集人員を拡大した学校推薦型選抜Bを実施し、評価・分析する。また、一般選抜、学校推薦型選抜Aを含めて、高校の進路指導の現状を確認し、適切な方法を導く。</p> <p>看護学研究科では、多様な志願者を受け入れる</p>	<p>定員を2名増やした学校推薦型選抜Bの令和5年度入試（定員12名）は、例年並みの志願者倍率（5.4倍）であった。志願者に占める岐阜県出身者数は8割と例年並みであったが、合格者は7名（58.3%）となり、県内出身の合格者数はこれまでより少なくなった。引き続き、各入試制度の動向及び県内高校における進路指導の現状を把握する必要性を確認した。</p> <p>看護学研究科では、多様な志願者を受け入れることのでき</p>		<p>学校推薦型Bの合格者に占める県内出身者の割合が6割以下のため、より、岐阜県出身者を入学させるよう、選抜方法を改良するなど、岐阜県出身者の増員にむけて努力されたい。</p>

通し 番号	R4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証
		業務実績、特筆すべき事項	自己 評価	
		自己評価理由、課題及びその改善策		
	<p>こののできる入学者選抜方法を継続実施し、研究科が求める人材を確保する。</p> <p>入学者選抜方法改善に向けた基礎資料の収集と選抜方法の適切性の分析・評価を継続する。</p> <p>入学試験実施体制・成績管理方法について点検・評価を行い、改善・充実のための取組みを継続する。</p>	<p>入学者選抜方法（学士課程卒以外の看護職者の出願資格の認定）を実施した。また、博士前期課程は二次募集を行い、最終的には合格者7名（定員12名、受験者10名）、博士後期課程は合格者2名（定員2名、受験者4名）で研究科が求める人材が確保できた。</p> <p>入学者選抜方法改善に向けて、令和3年度卒業者の選抜方法別卒業状況、免許取得状況及び退学・休学状況を集計・分析した。平成30年度に入学した80名中78名が卒業していた。選抜方法別に免許取得者割合をみると、推薦入試Aの入学者は、学年平均と比べ、保健師免許取得が3.6%少なかった。平成16年度卒業から令和3年度までの卒業者の保健師免許取得割合を選抜方法別にみると、推薦入試Aの入学者は全卒業生平均に比して2.1%少ない現状があり、今後の動向を注視することとした。</p> <p>看護学科では、確実に作問及び入学試験が実施できるよう、試験問題の内容及び形式を点検するためのチェックリストを活用し、問題点検の度に確認した。各入試の実施後は、入試実施委員会から入試を担当した教員へメールを送り、気づいた点など意見を寄せてもらうよう依頼しているが、特に改善が必要となる指摘はなかった。</p> <p>看護学研究科では、作問から問題・解答用紙作成までの過程について、チェックリストを活用して適正に執行していることを確認した。また、新型コロナウイルス感染症対策として、状況に応じてオンライン形式を用いた事前面談の実施や健康管理チェック表を用いた入試当日の受験生の体調確認、及び文部科学省の「新型コロナウイルス感染症に対応した試験実施のガイドライン」等に沿った入試実施体制を整備し、入学試験を実施した。</p>		
10	<p>オープンキャンパス、教員出張方式による大学説明会及び模擬授業は新型コロナウイルス感染症対策を講じて実施するとともに、大学ホームページでの情報発信、大学案内冊子の刊行等を計画的に行い、その実績等から今後の方向性を検討する。</p>	<p>本学で看護を学ぶことの魅力を伝えるとともに、入試制度の周知を目指して、オープンキャンパスの開催、出張式大学説明会及び模擬授業の実施、大学ホームページの運用、大学案内冊子の刊行等を実施した。</p> <p>オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、予約制（人数限定）による来校型で開催した。プログ</p>		<p>「卒業生及び修了者と在学生との交流会」や卒業生対象の「キャリアマネジメント講習会」を行っていることは評価できる。</p>

通し 番号	R4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証									
		業務実績、特筆すべき事項	自己 評価										
		自己評価理由、課題及びその改善策											
	<p>毎年度入学者に実施してきた「本学選択に影響を与えた情報媒体」調査及びオープンキャンパス参加者アンケート等を継続し、効果的な方法を採用する。</p> <p>将来の受験者世代やその家族等住民・市民を想定して、看護や本学への関心を高めてもらうための方策を推進する。</p>	<p>ラムは教員からの大学説明、施設見学、入試に関する個別相談、在学生によるキャンパスライフの紹介に限定されたが、参加者からは、本学の雰囲気や特徴が理解できた、本学で学びたいと思った等の反応が得られた。実施後は大学ホームページに大学説明会動画、在学生によるキャンパスライフの紹介などを掲載し、広く閲覧できるようにした。</p> <p>出張式大学説明会・模擬授業は、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、オンライン形式で実施した。対象とする高校の選定は、入試ごとの受験者・合格者数、令和3年度の活動実績等を踏まえ、効果的と判断したところを優先した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>開催日・回数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープン キャンパス</td> <td>令和4年 8月7日・8日</td> <td>225名 (高校生131名、 保護者94名)</td> </tr> <tr> <td>出張式 大学説明会 ・模擬授業</td> <td>25件 (大学説明会21 件、模擬授業4件)</td> <td>466名</td> </tr> </tbody> </table> <p>1 セメスターのガイダンス時に新入生を対象に調査を実施した。本学選択に影響を与えた情報媒体調査の結果、「大学案内冊子」「大学ホームページ」「高等学校の教員」の影響が上位を占め、「オープンキャンパス」が令和3年度と比べ半減したことを確認した。新型コロナウイルス感染症のためWebでの実施や予約制（人数限定）など実施方法を変えたこととの関連が考えられた。大学案内冊子は見やすくなるようデザインの一部分変更や写真の更新作業を行い、大学ホームページは大学説明会動画等の充実を図った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の5類への移行後を見据え、広報委員会で中学生向けの広報活動について検討した。地元の教育委員会に協力を呼びかけ、中学生向けプログラムをオープンキャンパスあるいは岐看祭と同時開催するなどの方法が検討された。</p>	内容	開催日・回数	参加者数	オープン キャンパス	令和4年 8月7日・8日	225名 (高校生131名、 保護者94名)	出張式 大学説明会 ・模擬授業	25件 (大学説明会21 件、模擬授業4件)	466名		
内容	開催日・回数	参加者数											
オープン キャンパス	令和4年 8月7日・8日	225名 (高校生131名、 保護者94名)											
出張式 大学説明会 ・模擬授業	25件 (大学説明会21 件、模擬授業4件)	466名											

通し 番号	R4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証
		業務実績、特筆すべき事項	自己 評価	
		自己評価理由、課題及びその改善策		
	看護学研究科については、専門職の生涯学習として大学院での学修が認識されるように、在学生、卒業生及び県内の看護職者への働きかけを強化する。	学部学生に対しては、「卒業生及び修了者と在学生との交流会」において、本学卒業生である修了者をシンポジストとして招聘し、大学院での学びや修了後の活動について話してもらった。卒業生に対しては、3月に卒業生対象のキャリアマネジメント講演会を看護研究センターと協働でオンライン形式で開催し、プログラムの一部として本学修了者による講演、研究科の紹介を行った。卒業生9名の参加があり、終了後のアンケート結果から研究科への関心の高まりを確認できた。県内看護職者には、3月に就職進路対策委員会が主催した「県内医療施設等看護管理者との懇談会」において、大学院案内パンフレット等を配布した。また、新しい試みとして、12月～3月は月1回オンライン相談会を実施し、計6名の相談に対応した。		
16	学生の自己管理能力を高め、安全な学生生活ができるよう、学生生活委員会及び学年相談教員による支援を継続する。	安全な学生生活を送るための学生の自己管理能力を高めるため、学生生活委員会及び学年相談教員部会では、一年次生を対象として防犯講習会、交通安全セミナー、若年消費者被害未然防止セミナー及び薬物乱用防止セミナー等の各種セミナーを開催するとともに、「学生生活安全対策ガイド」を用いて各学年ガイダンスで意識付けを行った。また、入学時に貸与した防犯ブザーは常に携帯することや卒業時に返還しなくてよいことを説明し、活用を促した。 成年年齢が令和4年4月から引き下げられ、18歳から契約行為が可能になったことを受けて、一・二次生の学年別ガイダンスにて注意喚起を行った。		18歳から契約行為が可能になったことを受け、一、二次生の学年別ガイダンスにて注意喚起を行ったことは評価できる。
19	在学者と卒業生・修了者との交流会を開催し、卒業生から進路選択や看護実践活動の実際、修了者から大学院を活用した自己研鑽の取組を聴くことによって、学生が自身の将来を描き、進路を考える機会とする。 県内施設及び卒業生の協力を得て、就職ガイダンスを継続実施し、学生が看護の仕事の本質や魅力を確認できるよう支援する。	学生が看護職としての自身の将来像を主体的に描き、就職について具体的に考えることができるように、看護師、保健師、助産師、養護教諭として働いている卒業生5名と大学院修了者1名を迎え、11月に卒業生及び修了者と在学生との交流会を開催した。対象とした一・二・三年次生のうち160名が参加し、終了後のアンケートにおいて、7割を超える学生が、就職・進路を考えるヒントが得られた、看護職として働くことへのイメージが深まったと回答した。 県内医療施設等(23施設)の参加を得て、看護部長や卒業生等による全体説明会と施設別相談会をオンライン形式で1月に開催した。二・三年次生を対象に行い、全体説明会に		① 国家試験合格率は、全て全国平均を上回っており、助産師及び看護師の合格率が100%であることは評価できる。 ② 県内就職率が6割を下回るの、4割以上が他県へ就職していることとなるため、改善されるよう努力されたい。

通し 番号	R4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																				
		業務実績、特筆すべき事項	自己 評価																																					
		自己評価理由、課題及びその改善策																																						
		<p>は約 90 名、施設別相談会は延べ 109 名が参加した。実習後に参加する三年次生には、新たな視点で進路や就職先を検討する機会となり、二年次生にとっては、多様な施設の概要を知り、就職活動の進め方を考える機会となっていた。</p> <p><令和4年度就職状況及び国家試験合格率></p> <p>卒業生数 80 名 就職者数 77 名 県内就職者数（看護職のみ） 44 名 県内就職率（看護職のみ） 57.1%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>看護師</th> <th>保健師</th> <th>助産師</th> <th>養護 教諭</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県内</td> <td>31</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>22</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>53</td> <td>14</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>77</td> </tr> </tbody> </table> <p><国家試験合格率（令和5年3月卒）></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>合格率</th> <th>全国合格率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>100.0 %</td> <td>95.5 %</td> </tr> <tr> <td>保健師</td> <td>98.7 %</td> <td>96.8 %</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>100.0 %</td> <td>95.9 %</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和4年度の看護師・保健師・助産師国家試験の合格率は、いずれも全国平均を上回った。保健師の不合格者（1名）は就職への支障はなかったが、就職進路対策委員会が再受験に向けた指導を実施する計画である。今後も学年別ガイダンスにおいて、就職進路対策委員会が学修の動機づけ、模擬試験の有効活用等による自己評価促進への働きかけを実施するとともに、四年次生に対しては、卒業研究の指導教員が学生の学修状況を確認する等個別指導を継続していく。</p>		看護師	保健師	助産師	養護 教諭	計	県内	31	6	3	4	44	県外	22	8	3	0	33	計	53	14	6	4	77		合格率	全国合格率	看護師	100.0 %	95.5 %	保健師	98.7 %	96.8 %	助産師	100.0 %	95.9 %		
	看護師	保健師	助産師	養護 教諭	計																																			
県内	31	6	3	4	44																																			
県外	22	8	3	0	33																																			
計	53	14	6	4	77																																			
	合格率	全国合格率																																						
看護師	100.0 %	95.5 %																																						
保健師	98.7 %	96.8 %																																						
助産師	100.0 %	95.9 %																																						
20	就職進路対策委員会において、4年間を通じた就職・進路ガイダンスを体系的に計画・実施する。	就職進路対策委員会が中心となって、セメスター開始時のガイダンス、就職・進路希望調査と個別相談、卒業生及び修了者と在学生との交流会、岐阜県医療機関等による就職ガイダンス等を計画的に実施した。また、四年次生には、卒業研究の指導教員が個別に相談にのり、きめ細やかに支援することを継続した。		学生が将来像を描くにあたり、看護職が必要とされる場が広がっている状況を伝えることで、生涯学び続けることの意義が更に理解されるのではないかと考える。																																				

通し 番号	R4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証
		業務実績、特筆すべき事項	自己 評価	
		自己評価理由、課題及びその改善策		
	大学院への就学を視野に入れ、実務を通して成長していくための方法を指導する。	四年次の看護学統合演習の個別面接時に、学生から将来どのような看護職になりたいのかを聞き、学生の将来像を共に描くことを通じて、専門職として生涯学び続けることの意義を理解できるように指導した。		
21	卒業生支援として、卒後1年目・2年目交流会を開催するとともに、大学院就学を含め、実践経験に応じた支援方法を開発し、看護実践能力の向上を支援する。	卒後1年目交流会、卒後2年目交流会は6月にオンライン形式で実施した。参加者は12名（卒後1年目7名、卒後2年目5名）で、対面実施した年と比べると少なかったが、日頃の悩みを参加者同士で共有し、同級生と交流する機会になった。また、看護研究センターが卒業生支援の相談窓口であることを伝えた。終了後のアンケートには、「悩みが共有でき、リフレッシュすることができた」「仲間も頑張っていることを知ることができた」等の記載があり、8名が「大変有意義だった」と回答した。		医療機関等による業務は、心身のストレスが分かり孤独になることが多いことから、卒業生に対する更なるケアを実施されたい。
27	教員各自の専門分野の研究を推進・発展させるため、文部科学省科学研究費補助金等への応募及び採択を支援するための研修会等を実施する。	科学研究費助成事業については、令和4年度は新規に基盤研究C 2件が研究代表者として採択され、基盤研究C 7件、若手研究 2件の9件が研究代表者として継続した。 科学研究費の最近の変更点や動向を踏まえた研究計画調書作成の基本について学ぶために、事務局の担当職員が講師となり「科研費申請へのアプローチ-研究計画調書作成の基本-」をテーマに講義形式の研修会を9月に開催し32名が参加した。また、学長の下に立ち上げた科学研究費補助金申請支援チームにおいて、若手教員等希望する教員を対象として、研究計画調書に対する助言の機会を複数回設けた。 各種研究助成に関する公募情報はメール等で36件提供した。		① 新たに基盤研究Cが2件採択され、計9件の科学研究費補助金を獲得していることは評価できる。 ② 教員一人当たりの研究成果発表件数が目標を達成していないので、より一層、知見を世に公表されるよう努力されたい。
30	県内医療施設等による就職ガイダンスや県内施設に就職した卒業生・修了者との交流会の開催及び県内で活躍する人材による特別講義等県内就業の魅力を伝える取組みを実施する。 本学、岐阜県健康福祉部及び岐阜県看護協会との「看護人材に関する三者連絡協議会」等において県内就職足進策等の協議を実施する。	県内就業の魅力伝えるために、一年次生を対象として5月に県健康福祉部長を招聘した特別講義を実施し、県内で勤務する看護職の活動を具体的に説明していただいた。卒業生及び修了者と在学生との交流会は、11月に県内に就業する卒業生5名及び修了者1名をシンポジストとして招聘し、オンラインと対面の併用によるハイフレックス方式で実施し、一・二・三年次生約160名が参加した。シンポジウム後に職種別交流会を開催し、相互交流を図った。参加者の事後アンケートでは、「看護職として働くことのイメージが深まった」「就職・進路を考える上でのヒントを得られた」等、回答者		保健医療計画に記載される看護師等の数値目標について、岐阜県の現状を踏まえ、討論ができる機会があると良い。

通し 番号	R4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																								
		業務実績、特筆すべき事項	自己 評価																									
		自己評価理由、課題及びその改善策																										
		<p>全員が有意義であったと答えた。岐阜県医療施設等による就職ガイダンスは、二・三年次生を対象として、1月にオンラインで実施し、県内16病院の看護部長・卒業者等による各施設紹介、県保健医療課及び5市による保健師活動紹介、岐阜県看護協会による看護職の職能団体についての紹介が行われ、学生と教員を含め約90名の参加があった。施設毎の説明の後、施設別相談会を開催し、延べ109名が参加した。</p> <p>2月に開催した「看護人材に関する三者連絡協議会」の機会に、岐阜県の看護の魅力を生徒に発信する方法について意見交換し、生徒の認識を捉え三者で共有する必要があることを確認した。</p>																										
38	<p>県が行う各種の看護職者への研修等の企画・運営・実施・評価に関する支援を行うとともに必要に応じて新型コロナウイルス感染症関連の支援を実施する。</p>	<p>岐阜県がん診療連携拠点病院支援協議会や岐阜県福祉サービス第三者評価推進審議会等の各種委員に引き続き就任するとともに（下記表1）、各種研修について企画・運営等の支援（下記表2）、及び各研修会に講師を派遣した（下記表3）。</p> <p>表1：各種委員会委員状況（岐阜県）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>委員会名</th> <th>委員担当 開始年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヘルスプランぎふ21推進会議</td> <td>平成13年度</td> </tr> <tr> <td>岐阜県がん診療連携拠点病院支援協議会</td> <td>平成19年度</td> </tr> <tr> <td>岐阜県福祉サービス第三者評価推進審議会</td> <td>平成24年度</td> </tr> <tr> <td>岐阜県障害児通所給付費等不服審査会</td> <td>平成24年度</td> </tr> <tr> <td>岐阜県障害者介護給付費等不服審査会</td> <td>平成25年度</td> </tr> <tr> <td>岐阜県医療審議会</td> <td>平成28年度</td> </tr> <tr> <td>岐阜県国民健康保険運営協議会</td> <td>平成29年度</td> </tr> <tr> <td>学校におけるがん教育推進協議会</td> <td>平成30年度</td> </tr> <tr> <td>岐阜県地域医療対策協議会</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>「清流の国ぎふ」文化祭2024実行委員会委員</td> <td>令和4年度</td> </tr> <tr> <td>岐阜県措置入院制度の運用に係る関</td> <td>令和4年度</td> </tr> </tbody> </table>	委員会名	委員担当 開始年度	ヘルスプランぎふ21推進会議	平成13年度	岐阜県がん診療連携拠点病院支援協議会	平成19年度	岐阜県福祉サービス第三者評価推進審議会	平成24年度	岐阜県障害児通所給付費等不服審査会	平成24年度	岐阜県障害者介護給付費等不服審査会	平成25年度	岐阜県医療審議会	平成28年度	岐阜県国民健康保険運営協議会	平成29年度	学校におけるがん教育推進協議会	平成30年度	岐阜県地域医療対策協議会	令和元年度	「清流の国ぎふ」文化祭2024実行委員会委員	令和4年度	岐阜県措置入院制度の運用に係る関	令和4年度		<p>医療において看護師の役割が増す中、各種会議に看護大学が出席する事は評価できる。今後も多くの会議に出席し、看護学の見識を基に意見を主張されたい。</p>
委員会名	委員担当 開始年度																											
ヘルスプランぎふ21推進会議	平成13年度																											
岐阜県がん診療連携拠点病院支援協議会	平成19年度																											
岐阜県福祉サービス第三者評価推進審議会	平成24年度																											
岐阜県障害児通所給付費等不服審査会	平成24年度																											
岐阜県障害者介護給付費等不服審査会	平成25年度																											
岐阜県医療審議会	平成28年度																											
岐阜県国民健康保険運営協議会	平成29年度																											
学校におけるがん教育推進協議会	平成30年度																											
岐阜県地域医療対策協議会	令和元年度																											
「清流の国ぎふ」文化祭2024実行委員会委員	令和4年度																											
岐阜県措置入院制度の運用に係る関	令和4年度																											

通し 番号	R4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																														
		業務実績、特筆すべき事項			自己 評価																													
		自己評価理由、課題及びその改善策																																
		係者検討会議 表2：各種研修会企画・実施状況（岐阜県） <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修名等</th> <th>対象者等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療的ケア専門研修</td> <td>特別支援学校の教職員</td> </tr> <tr> <td>保健師現任研修</td> <td>県・市町村保健師</td> </tr> <tr> <td>新任保健師研修</td> <td>新規採用者</td> </tr> <tr> <td>ステップアップ研修</td> <td>採用5～6年目</td> </tr> <tr> <td>管理者研修</td> <td>係長・課長補佐級</td> </tr> </tbody> </table> 表3：各種研修会への講師派遣状況（岐阜県） <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修名等（派遣人数）</th> <th>研修担当機関等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療的ケア専門研修（6名）</td> <td>岐阜県教育委員会</td> </tr> <tr> <td>新任保健師研修（9名）</td> <td>岐阜県保健医療課</td> </tr> <tr> <td>保健師ステップアップ研修（7名）</td> <td>岐阜県保健医療課</td> </tr> <tr> <td>認定看護管理者教育課程 セカンドレベル（2名）</td> <td>岐阜県看護協会</td> </tr> <tr> <td>認定看護管理者教育課程 ファーストレベル（2名）</td> <td>岐阜県看護協会</td> </tr> <tr> <td>岐阜県訪問看護師養成講習 会（1名）</td> <td>岐阜県看護協会</td> </tr> <tr> <td>看護職員再就職支援研修 （1名）</td> <td>岐阜県看護協会</td> </tr> <tr> <td>高齢者権利擁護推進に係る 看護実務者研修（7名）</td> <td>岐阜県福祉事業団</td> </tr> </tbody> </table> また、県感染症対策推進課から新型コロナウイルス感染症に係る保健所支援の要請があり、4月29日から5月31日の間及び7月29日から8月28日の間、岐阜保健所、西濃保健所及び可茂保健所へ延べ36名が支援に出向いた。	研修名等	対象者等	医療的ケア専門研修	特別支援学校の教職員	保健師現任研修	県・市町村保健師	新任保健師研修	新規採用者	ステップアップ研修	採用5～6年目	管理者研修	係長・課長補佐級	研修名等（派遣人数）	研修担当機関等	医療的ケア専門研修（6名）	岐阜県教育委員会	新任保健師研修（9名）	岐阜県保健医療課	保健師ステップアップ研修（7名）	岐阜県保健医療課	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル（2名）	岐阜県看護協会	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル（2名）	岐阜県看護協会	岐阜県訪問看護師養成講習 会（1名）	岐阜県看護協会	看護職員再就職支援研修 （1名）	岐阜県看護協会	高齢者権利擁護推進に係る 看護実務者研修（7名）	岐阜県福祉事業団		
研修名等	対象者等																																	
医療的ケア専門研修	特別支援学校の教職員																																	
保健師現任研修	県・市町村保健師																																	
新任保健師研修	新規採用者																																	
ステップアップ研修	採用5～6年目																																	
管理者研修	係長・課長補佐級																																	
研修名等（派遣人数）	研修担当機関等																																	
医療的ケア専門研修（6名）	岐阜県教育委員会																																	
新任保健師研修（9名）	岐阜県保健医療課																																	
保健師ステップアップ研修（7名）	岐阜県保健医療課																																	
認定看護管理者教育課程 セカンドレベル（2名）	岐阜県看護協会																																	
認定看護管理者教育課程 ファーストレベル（2名）	岐阜県看護協会																																	
岐阜県訪問看護師養成講習 会（1名）	岐阜県看護協会																																	
看護職員再就職支援研修 （1名）	岐阜県看護協会																																	
高齢者権利擁護推進に係る 看護実務者研修（7名）	岐阜県福祉事業団																																	
43	ファカルティ・ディベロップメント活動として、看護学科では年度当初に教員個々のニーズや各種委員会の希望を把握して研修等を企画実施する。看護学研究科では、看護実践研究の指導方法等についての検討を組織的に実施する。また、ウィズ/アフターコロナ時代におけるサバティカル研修制度のあり方を見直す。	ファカルティ・ディベロップメント活動は、看護学科では、年度当初に教員個々及び各委員会・部会のニーズを把握し、次の企画を行い、開催した研修会には多くの教員が参加したが、例年に比して、本人・家族の体調不良等による欠席者がやや多かった。 ・「外部研究資金応募に向けた研修会」（令和4年8月1日（月）、参加者32名（希望者が参加））	ファカルティ・ディベロップメント（「災害対策に向けた研修会」）における事務職員の参加率が低いと、改善されたい。																															

通し 番号	R4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証
		業務実績、特筆すべき事項	自己 評価	
		自己評価理由、課題及びその改善策		
		<ul style="list-style-type: none"> ・「入学者選抜方法の充実に向けた研修会」(令和4年9月20日(火)、参加率80.7%) ・「カリキュラムを理解して学士課程教育の充実を図ろう」(令和5年3月3日(金)、参加率80.4%) ・「災害対策に向けた研修会」(令和5年3月9日(木)、参加率 教員87.5%、事務職員57.1%) <p>また、研究倫理に関しては、「研究倫理の基本と指針のポイント」(講師：国立精神・神経医療研究センター 臨床研究支援部 生命倫理室 室長 有江文栄氏、令和5年2月15日(水)、参加率100%)をテーマとした研修会とともに、eラーニング等による学修プログラムを提示し、修了者には修了証を発行した。キャンパスハラスメント防止研修に関しては、講演(講師：名古屋大学ハラスメント相談センター 深見久美子氏、令和5年3月17日(金)、参加率100%)を実施した。</p> <p>看護学研究科においては、「博士後期課程の看護実践研究指導の充実に向けた検討」(令和4年11月10日(木) 参加率100%)及び「博士前期課程の研究指導の流れについて」(令和5年3月9日(木) 参加率100%)を開催し意見交換を行った。</p> <p>サバティカル研修については、ベテラン教員が対象であったが、今後の本学の発展及び教育活動の改善・充実の観点から若手教員を対象とした研修制度に切り替えていくこととなった。</p>		
59	<p>業務内容や業務量の変化に柔軟に対応するため、随時事務分掌の見直しを行う。</p> <p>事務職員定数の増加を図る。</p>	<p>育児休業から復帰する職員の育児短時間勤務等に合わせ、業務量に注意しながら事務分掌の見直しを行った。</p> <p>事務職員定数については、県と協議し、令和4年度より1名増加の16名となった。職員採用試験は8月から11月にかけて実施し、欠員分を含め令和5年4月1日付で2名採用することとした。</p>	Ⅲ	AIを活用する等、人員を増員する以外の工夫も検討されたい。